10/10/15

＜パスカル＞とレアリテ

野呂　康
（岡山大学言語教育センター准教授）

本日は本研究会にようこそおいで下さいました．本日の司会を務めさせていただきます野呂と申します．当企画は本学言語教育センター初修外国語系と，「文芸事象の研究会」という，企画により構成員が変わる研究会による共催となります．特殊なテーマに関する企画を受け入れ，開催準備に御尽力くださいました，同僚の先生方に感謝いたします．

さて，本企画は「＜表象＞のパスカル―パスカル学への新たな寄与の試み」と題し，三回の公開研究会で構成されます．7月25日の大阪大学での開催から，本日はその第2回にあたり，最終回は12月に東京での開催を予定しております．

各回に共通しておりますのは，石川知広先生の御講演，続いて今回の主旨に同意していただいた17世紀フランス文学，哲学，歴史学の研究者による発表，そして登壇者による対話，以上のような形式となります．本日お越しいただいた石川知広先生は今年度をもって御奉職先である首都大学東京を退官されますので，後進の研究者にパスカルについてご伝授いただきたいという気持ちもありましたが，それ以上に，他の研究者との直接の対話があれば，どのような見解や方法論が生まれるだろうという好奇心から企画いたしました．

また，本学は幸運なことに，パスカルの計算機関連文書の泰斗であられる永瀬春男先生が教鞭をとっていらっしゃいました．そこで，先生にも御願いして，パスカルに関した二つのお話を聞くという，贅沢な機会を持つことができました．

最後に，本学のドイツ語教員である久保田聡先生が今年の夏にドレスデンを訪れ，世界に九台しか現存しない，それも同じものはないはずの，パスカルの計算機pascalineを見てきてくださいました．プログラム作成には間に合いませんでしたが，石川，永瀬両先生の御発表後に，写真を用いた御報告をしていただけることになり，本当に嬉しく思います．

最後にプログラムにある「対談」ですが，本企画全体の趣旨の一つである，石川先生と後進の研究者の対話という設定が，本日の企画では他の会場と比較して希薄ですので，久保田先生の発表と発表者である両先生への自由な質疑応答という形に代えさせていただければと思います．やや予定変更を含みますが，どうぞ最後までお付き合いいただき，知的好奇心を満たしていただければと思います．

＊＊＊＊＊

それではまずは石川先生にお話しいただきます．

石川先生は現在，首都大学東京人文科学研究科に御勤めで，御専門は17世紀フランス思想・文学，主として，パスカルを始めとするポール＝ロワイヤル・グループとその現代的意義についての研究をされております．本日はパスカルのユダヤ人表象についてお話してくださいます．17世紀，パスカルの生きたパリに，ユダヤ人はいなかったといわれています．にもかかわらず，パスカルは『パンセ』を中心に，頻繁にユダヤ人に言及しております．なぜパスカルは，存在しないはずのユダヤ人にかくもこだわったのでしょうか．この点，従来の研究ではほとんど顧みられていませんでした．それでは石川先生，よろしく御願いします．

＊＊＊＊＊

石川先生，有り難うございました．

それでは10分程度，休憩（質疑応答）の時間を設けたいと思います．

（どちらか）どうぞ，肩書きなどに関係なく，御自由に，想い浮かんだ御質問をなさってください．

＊＊＊＊＊
　それでは再開いたします．続きまして，岡山大学名誉教授である永瀬春男先生に御登壇願います．先ほども申し上げましたが，永瀬先生は長年，本学で教鞭をとる傍ら，パスカルの計算機関連文書に関する研究を積み上げられ，著書として発表されておられます．当時の大法官であったセギエに宛てたパスカルの献辞から，論争の痕跡を読み取られた上でパスカルの思想と結びつけて論じられた数々の御高論に大学院生時代に触れ，感銘を受けたことをよく覚えております．それではよろしくお願い申し上げます．

「パスカルにおける科学、論争、レトリック—計算機体験を中心に」

＊＊＊＊＊
　永瀬先生，有り難うございました．それでは，ここで10分程度の休憩を入れまして，時分から再開いたします．

＊＊＊＊＊
　続きまして，本学の久保田聡先生に，ドレスデンのpascalineについてご報告いただきたいと思います．おそらく，ここにいらっしゃるパスカルを専門とされている先生方でも，ドレスデンに実際に足を運ばれ，御自身で本物を確認された先生はいらっしゃらないと思います．保存の状態，歴史的経緯だけでなく，ドレスデンという街の様子も交えながらお話しいただけると有難くおもいます．

＊＊＊＊＊
　それでは対談に入りたいと思います．鼎談の題名は「パスカルと論争的実践知の問題」となります．よろしく御願いします．
　（会場からの質問も受け付ける）

＊＊＊＊＊
　それではそろそろ本日の会を終わりたいと存じます．
　本日を締めくくりにあたり，次回の予告をさせていただきます．次回は「パスカルと＜ジャンセニスム＞：歴史の記述と認識」と題しまして，東京の慶応義塾大学にて，石川先生と御園敬介先生，嶋中博章先生に御登壇願います．石川先生は「『パンセ』と書物の＜深淵＝無限反復＞」という題名で，パスカルの主著と見なされる『パンセ』についてお話してくださいます．『パンセ』につきましては，岩波文庫から塩川徹也先生による三巻本の新訳がではじめたところですので，非常にタイムリーな企画となりそうで楽しみにしております．
　御園氏にはパスカルの関わったジャンセニスムと歴史記述に関する研究を披露していただきます．また，嶋中氏は，昨年度本学のこの，特別公開講座という枠組みで御足労願いましたので，ご記憶の方もいらっしゃるかと思いますが，東京では「太陽王治下の聖母出現をめぐる史料の成立」という題名で，歴史史料の扱いに関する発表をしていただけるようです．

　さて，最後となりますが，御登壇くださりました先生方，本企画のためにわざわざ足を運んでくださりました会場の方々に御礼申し上げます．それでは本日の会を終わりにしたいと存じます．有り難うございました．